鳥取大学産学・地域連携推進たより

巻頭言

「　大学における３本の矢　」

鳥取大学　産学・地域連携推進機構　機構長　菅原　一孔

前回，本たより 2011 年春号に「大学における産学連携の今後」と題して巻頭言を書く機会を得た．今回はその続きを書かせていただきたい．産学官連携が比較的新しい言葉として取り上げられていたころ，すなわち本機構の前身の一つである，地域共同研究センターが設立されたころ，目指すべき産学官連携のあり方についての模索が始まったと言える．当初は，それまで主に教員の個人的なつながりにより行われてきた企業との共同研究や受託研究を，大学として組織的に実施するための体制作りを始めたように記憶している．その後 10 年以上経過し，その間の国立大学の独立法人化への移行の際，社会貢献という大学にとっての第三の社会的な役割が課せられたこともあり，それまでの産学官連携の在り様についての考え方についても大きな影響があった．これまでの活動とそれによって得た成果として，産学官連携という言葉に当初思い描いていた像が幻であったことに，地域社会もそして大学自身も気付きはじめたことを挙げることができる．実のある産学連携を現実のものとするには，地域社会はそれまで持っていた大学に対するイメージにとらわれず大学を多面的に見るよう，そして大学自身は地域社会から正しく認識されるようお互い努力をするべきである．同時に大学内では産学官連携を，研究や教育と切り離した形でとらえるのではなく，今，巷で取り上げられている３本の矢ではないが，それらを一つにまとめて一体とするとらえ方が重要と考える．研究を通しての教育活動，研究成果を通しての産学連携，そして教育成果ともいえる卒業生を通しての産学連携である．そのためには，学内での教育や研究活動を遂行するにあたり，地域社会から何が求められているかの観点を常に意識する必要がある．我々，産学・地域連携推進機構では，地域社会と大学とのインターフェイスの役割を果たせるよう活動してゆきたいと思っている．我々の活動に対して，是非，学内外から気軽に声掛けをしていただければ幸いである．

未来への責任

新たな地域社会づくりの仕組みと技術に挑戦した「過疎地域の戦略」が上梓された。菅原一孔機構長も執筆者に加わっている。鳥取の典型的な過疎地を描いて、未来への責任を果たそう。

（絵：中村宗和名誉教授）

①研究推進に関する事業報告

1. 中国地域国立大学法人５大学イチ押しビジネス交流会 in Osaka

【2 月 15 日（金）開催：大阪駅前第 3 ビル　鳥取県関西本部交流会】

今回は大阪地区で初めての試みとして、中国地域国立大学法人5大学からイチ押しの研究シーズを集めて紹介する合同ビジネス交流会を開催しました。鳥取大学は大学院工学研究科の石井晃教授が「ヒット現象の数理モデルを用いたＳＮＳマーケティング」、 島根大学は大学院総合理工学研究科の小俣光司教授が「新しい設計手法をつかった材料設計」、岡山大学は異分野融合先端研究コアの金原正幸特任助教 が「常温導電性金属ナノインク」、広島大学は大学院工学研究院の栗田雄一准教授が「デジタルヒューマン技術による製品ユーザービリティ評価」、山口大学は大学情報機構メディア基盤センターの杉井学准教授が「生物ゲノム情報解析用プログラムを応用した新しい迷惑メールフィルターの開発」の発表を行った。その中で鳥取大学は３社からの個別相談を受けました。ビジネス交流会の参加者は69名、情報交換会は52名の参加者があり活発な交流を図りました。

2. 鳥取大学東京ビジネス交流会【2 月 22 日（金）開催：CIC 東京】

「安心・安全の鳥取県の地域資源を活用する研究シーズ発表」をテーマに①「“竹するめ”の機能性評価と新食品素材としての応用展開」農学部生物資源環境学科　渡邊文雄教授、②「カニ由来の新繊維（キチンナノファイバー）（の製造とその応用展開」大学院工学研究科　伊福伸介准教授、③「高級食材キノコ（ショウロ）の人口栽培」農学部霜村典宏准教授の３研究シーズが発表されました。今回のビジネス交流会タイトルに【安心・安全の・・・】を謳ったこともあり、原材料⇒健康食品等最終製品関連企業の他、安心・安全の評価方法等に関心を持つ企業等も加わり48名の参加がありました。発表後の活発な質疑応答、同時並行の個別相談も5機関で6件に及び盛況となりました。また、本ビジネス交流会の概要は食品化学新聞（2013/3/7付け）に掲載されましたのでその後の波及効果も期待されます。

3. 鳥取大学－米子高専－神戸高専－鳥取県産業技術センター 合同ビジネス交流会

【3 月 5 日（火）開催：クリエーションコア東大阪】

今交流会は大阪府の研究開発助成金等の活用を視野に入れるとともに、関西地区で関心が高い、新エネルギー・省エネルギーに関する分野の研究シーズを４機関より発表する合同ビジネス交流会を開催しました。冒頭に大阪府商工労働部商工振興室ものづくり支援課の植木友紀子主査より「大阪府中小企業向け研究開発助成金制度の紹介」と鳥取大学産学・地域連携推進機構 研究推進部門の長島正明副部門長から「A-STEPなど産学連携の研究開発助成金」の紹介がありました。研究シーズの発表では、鳥取大学大学院工学研究科機械宇宙工学専攻の原 豊准教授が「２つのニューフォルム垂直軸風車『低重心風車』と『バタフライ風車』の提案」、国立米子高専 電子制御工学科の山本英樹教授は「氷温領域検出のための試料凍結センサの開発」、神戸市立高専機械工学科の吉本隆光教授は「低カロリーバイオマスのプラズマ支援燃焼」、鳥取県産業技術センター機械素材研究所の野嶋賢吾主任研究員は「鳥取県におけるマイクロ水力発電装置の開発概要」について発表を行いました。個別相談は各校とも1社の面談を実施、ビジネス交流会の参加者は70名、シーズ発表会後の情報交換会には約50名の参加がありました。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

（四町との連携事業）

1. 日南町自治協議会・自治会長合同研修会

【 1 月 25 日（金）開催：鳥取大学広報センター】

日南町自治協議会の七瀬会長をはじめ 18 名の町民の方々が来学しました。乾燥地研究センターを見学したあと広報センターにおいて、農学部日置教授と地域学部永松准教授から日南町をフィールドとした調査研究などについて講演を聴講しました。参加者からは地域活性化に取り組んでいくためのアイディアなどについて質問があり、大学関係者と活発な意見交換が行われました。

2. 平成２４年度鳥取大学・日南町連携事業報告会

【 3 月 2 日（土）開催：日南町総合文化センター】

平成 24 年度に鳥取大学と日南町が連携して取り組んだ事例について発表し、これからの地域活性化に役立てていくため報告会を開催したところ、町民約 50 名の参加者がありました。農学部 日置教授と大学院生の吉田さんから「オオサンショウウオと共生する農業用水路づくり」について、藤本准教授から「森林資源の有効利用に向けた木材材質総合評価技術の開発」について、片野助教から「豊かな環境を守るための不在村地主対策」について、医学部 谷口助教から「地域資源を活用した和のアロマオイルの開発研究」について事業成果や今後の目標などの発表がありました。また、調査研究に協力した地元関係者からの報告も行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

3. 第３回鳥取大学・日南町連携事業 WG 会議【 3 月 2 日（日）開催：日南町役場】

連携事業報告会終了後に、今年度 3 回目となる鳥取大学と日南町との連携事業について話し合うためのワーキンググループ会議（座長：農学部 日置教授）を開催しました。林理事、増原日南町長をはじめ 17 名の出席者で平成 25 年度の事業計画などをテーマに意見交換を行いました。日南町との連携は平成 25 年度で 8 年目を迎えることから、これまでの調査研究を継続するだけでなくエコツーリズムやインターンシップなどの新しい分野にも取り組んでいくことや森林認証（ＦＳＣ）について鳥大の複数の教員が連携して協力することなどを確認しました。

4. 第２０回琴浦元気プロジェクト会議【 1 月 31 日（木）開催：琴浦町役場分庁舎】

琴浦町グルメストリートプロジェクト戦略会議と第２０回ＫＯＹＴＯＵＲＡ元気プロジェクト合同会議が開催されました。グルメイベントの進捗状況や来年度のイベントについて、参加者１８名が協議しました。また、会議に先立ち、大山乳業農業協同組合において、グルメ企画第１２弾としてＫＯＴＯＵＲＡいちごスイーツパラダイス発表試食会が開催され、平井知事ほか約８０名の参加者は町内菓子店自慢の９種類のスイーツを試食しました。

5. 第６回琴浦町産学金官連携情報交換会【 2 月 22 日（金）開催：東伯イン】

第６回琴浦町産学金官連携情報交換会（鳥取大学振興協力会町内会員懇談会と併催）が開催され、２６名の関係者が出席しました。鳥取大学と琴浦町との連携事業、商工会の商工振興策、琴浦グルメストリートの活動状況、琴浦町関西事務所の活動状況、観光ビジョン、琴浦町販路開拓事業等の報告が行われた後、産学金官連携の強化について、活発な意見交換が行われました。

6. 第６回琴浦町地域活性化フォーラム【 3 月 9 日（土）開催：まなびタウン】

第６回琴浦町地域活性化フォーラムが開催され、約２３０名の町民が参加しました。

山下町長の開会挨拶に引き続いて、鳥取大学能勢学長が学長就任８年間を振り返りながらミニ講演を行いました。第１部では、「地域の活性化～明日の地域を考える～」と題して、平井知事に特別講演を行っていただきました。第２部では、鳥取大学成果発表として、林理事が今年度で６年目となる本学と琴浦町の連携事業について報告を行いました、また、工学研究科 谷本教授が山陰道利用実態調査について、松原教授が津波対策研究の総括について発表しました。

第３部では、町内１２団体が、輝け地域支援事業及び協同事業の成果発表を行いました。

7. 平成２４年度自治体職員政策形成研修

【 2 月 6 日（水）、19 日（火）、3 月 6 日（水）開催：南部町役場】

住民のニーズを施策に反映させるために町職員の政策形成能力の向上を目指して、持続的過疎社会形成研究プロジェクト（代表：谷本教授（工学研究科））と南部町が共同して政策形成研修会を開催しました。毎回 15 名程度の南部町職員が中心となって定住対策をテーマにワークショップ等に取り組みました。谷本教授からは「アイディアを蓄積し、必要なときに活用できるアイディアバンクとしてストックしたい」といった提案もありました。日南町、大山町の担当職員もオブザーバー参加しました。

8. 四町連携企画 in 南部町【 2 月 19 日（火）開催：南部町役場法勝寺庁舎】

鳥取大学に町職員の研修派遣を行っている四町（琴浦町、南部町、大山町、日南町）で共同して取り組んだ今年度の事業を振り返り、来年度以降の大学連携等についての協議を、各町の連携担当課の職員 8 名と工学研究科 谷本教授が出席し実施しました。学生に地域を知ってもらうためのＰＲやインターンシップ事業といった案が提示され、4 月以降に具体的に取り組んでいく予定です。

9. 平成２４年度南部町・鳥取大学連携事業報告会

【 2 月 20 日（水）開催：南部町公民館多目的ホール】

南部町では、昨年度に続き 2 回目となる連携事業報告会を開催し、町職員や一般町民約 60 名が参加しました。本学からは、岡田研究員（工学研究科）から「南部町東長田川におけるオオサンショウウオの現状～自然環境を活かした地域振興について～」、福山教授（工学研究科）から「地域振興協議会の検証」、山根教授（地域学部）から「南部町コミュニティ・スクール訪問研修と地域学・地域教育学の教育―「地域が学校をとりもどす」―」と題し３つの報告がありました。また、西伯病院・木村院長より「アミノインデックスを用いたがんリスクスクリーニングについて」報告がありました。なお、報告会に先立って、町と鳥大との意見交換会を行い、今後の連携事業のあり方等について協議しました。

10. 第２回大山ツーリズムワークショップ【１月 16 日（水）開催：広報センター】

鳥取大学地域貢献支援事業を活用して実施している､｢大山ツーリズムモニターツアー」の第 2 回ワークショップが開催されました。担当教員である地域学部光多教授、馬場准教授、学生２０名、大山町役場観光商工課職員が参加し、モニターツアー参加者の報告の後、大山ツーリズムに関する意見交換を行いました。参加者からは、大山の交通アクセスや情報発信の方法について様々な意見が提案され、活発な議論が行われました。

11. 地域産業資源エキナセアの機能性研究にかかる県知事報告

【１月 17 日（木）開催：米子ワシントンホテルプラザ】

エキナセアの栽培とハーブティーの製品開発を目的とした、鳥取県との共同研究成果について、平井知事への報告会が開催されました。農学部の石原准教授から「エキナセアには抗インフルエンザ活性をもつ物質が豊富に含まれる」こと、医学部の景山教授が「エキナセアティーには抗インフルエンザ効果が認められた」こと、また、竹内准教授から「スギ花粉症症状抑制効果が示されたこと」が報告されました。平井知事から「優れた機能性を秘めたエキナセアが、地元産業に貢献する素材として定着するとともに、大学での研究素材としても継続的に取り扱われさらなる研究推進が図られることを期待します。」とコメントがありました。

12. 大山町・鳥取大学連携事業報告会【３月 22 日（金）開催：大山町役場】

大山町では初めての連携事業報告会を開催し、町民や役場職員、議会議員約 45 名が参加しました。

はじめに、本学 林理事から平成２４年度大山町と鳥取大学の連携事業について報告しました。その後に谷本教授（工学研究科）から、｢高齢者の歩行補助手段に関するニーズ調査｣、馬場准教授（地域学部）から、｢地域貢献支援事業　大山ツーリズム｣、梶川助教、野口助教（工学研究科）から「地域貢献支援事業　大山北麓の水循環性に関連する基礎調査｣、黒岩准教授（工学研究）から「共同研究　大山町津波対策事業について」と題し４つの報告があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

13. 鳥取県との連携協定調印【１月 21 日（月）開催：鳥取大学広報センター】

鳥取大学と鳥取県は、少子高齢化や過疎、産業振興など地域の抱える諸課題に協力して取り組むため、能勢学長と平井知事が包括連携協定書に署名しました。鳥取大学と鳥取県は、昭和２４年の本学創設以来、産業振興、地域医療などさまざまな分野で協力関係を築いてきましたが、平成１６年４月の国立大学法人化以降はさらに連携関係を強化してきました。今後は、これまで以上に組織的な支援が可能となるよう、相互に体制を整備することになります。調印式後の会見で、平井知事は「県と大学の連携を密にすることで、地域の発展に繋がる。いま地域の産業、文化は国際的な競争にさらされており、大学にはその牽引役を果たしていただきたい」との期待を述べ、能勢学長は「地域との連携は本学の創設以来の使命であり、今後は国際的な人材を養成し、地元産業のグローバル化対応を支援していきたい」と述べました。

14. とっとりバイオフロンティア事業運営委員会

【第 6 回 1 月 24 日（木）、第 7 回 3 月 27 日（水）開催：鳥取大学米子キャンパス】

１月と３月に２回の運営委員会（委員長：岡村県商工労働部長）が開催されました。本年度の事業全体の運営状況や関係部会の開催状況等について報告が行われました。また、今後、地域イノベーション戦略推進地域の指定に向けて、本学染色体工学研究センター、県、産業機構等、運営委員会構成機関が一致協力して取り組むことを申し合わせました。

15. 中部地区産学金官連携推進連絡会　商工分野情報交換 WG 会議

【 1 月 28 日（月）開催：倉吉商工会議所】

商工分野情報交換ＷＧの事業報告として、鳥取大学中部オフィスの実績（１１件：技術開発７件、技術支援４件）、工学部出前技術講演会（参加者：３４名）、振興協力会中部地区交流会（参加者：３１名）の報告がありました。また、県から、労働移動緊急対策事業、県内主要製造業再生支援事業、並びに中部発！町工場活性化支援事業の紹介が、本学の岡本ＣＤからは中部ものづくり道場指導者養成講座のＰＲがありました。

16. 中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会議、農商工連携 WG 会議

【 2 月 6 日（水）開催：中部総合事務所】

中部地区における産学金官を推進し、地域資源・産物の高付加価値化及び新産業展開のための情報交換やビジネスマッチングなど地域の産業活性化を目的に中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会議と農商工連携ワーキンググループ会議が開催されました。事務局会議では、関係機関との連携方策や次年度総会方針などについて協議を行いました。農商工連携ワーキンググループ会議では、農産物１次加工施設の開設支援と１年間の進捗状況について報告がありました。

17. 中部地区企業による鳥大等訪問【3 月 19 日（火）開催：鳥取大学ほか】

企業の産学連携の取り組みや経営方針を学ぶことを目的として、中部地区の企業が東部地区の事業所と鳥取大学を視察しました。２０名の参加者は、気高電気（株）において大手家電メーカーからの自立について、ダイヤモンド電機(株)鳥取工場からは技術伝承について企業担当者の説明に聞き入っていました。本学の農学部附属動物医療センターでは、竹内　崇センター長からセンターの概要説明、センター内部の案内をして頂きました。手術中の様子やＭＲＩ・ＣＴスキャンなども見学し、参加者はその設備の充実に大変感心していました。その後、参加者と本学の中部出身教職員による交流会が開催されました。

18. 第４回とっとり防災・危機管理研究会

【 1 月 29 日（火）開催：工学部附属地域安全工学センター】

今年度 4 回目の研究会を開催しました。

今回の研究会には、初めて鳥取県県土整備部からの参加があり、平成 23 年度・平成 24 年度の県内での災害復旧工事の進捗等について報告を行っていただきました。豪雨・河川災害等は本研究会でも関心の高いものであり、今回の報告は研究会にとって大変有意義なものでした。協議事項では防災フォーラムの内容や防災士養成講座について協議しました。

19. 平成２４年度防災フォーラム【 3 月 23 日（土）開催：とりぎん文化会館】

研究会での研究成果を広く周知するため、また地域住民の津波等災害に対する意識の向上を図るため「防災フォーラム」を開催しました。今回は、鳥取大学医学部附属病院救命救急センターの本間センター長に「東日本大震災救援活動支援について」という演題で講演していただきました。また、パシフィックコンサルタンツ(株)の安本氏より宮城県名取市での被害状況と復興計画について話していただき、約 60 人の参加者は熱心に聞き入っていました。また会場の外では、本研究会の研究成果のパネル展示や日本赤十字社鳥取県支部による防災グッズの展示等を行いました。

20. 鳥取大学・鳥取銀行連携リエゾンセミナー～産学官金連携を目指して～

【 1 月 31 日（木）開催：鳥取銀行倉吉中央支店】

本学と鳥取銀行が平成 16 年に締結した「連携協力に関する協定」に基づき、金融機関や行政機関の企業支援担当者が、本学の技術シーズや産学連携の成功事例を共有することにより、産学官金連携の促進に繋げることを目的として開催しました。セミナーには 34 名が参加し、大学院工学研究科の大澤教授による自動車用動力における技術動向の紹介や、新エネルギーを活用した事業に取り組む株式会社エナテクスの福井社長から共同研究事例の紹介を受けました。金融機関担当者は、産と学の橋渡し役となることで企業の課題解決に繋がるなどメリットを確認しました。

21. 鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー～産学連携による未利用資源の有効活用～

【 3 月 14 日（木）開催：鳥取大学医学部旧保健学科棟】

本セミナーは、産と学のマッチング促進及び県内産業の活性化を目的として開催しました。

民間企業等から 48 名が参加し､農学部の南教授からは廃カニ殻から抽出したキチンナノファイバーを用いたグルコサミンの健康分野への応用事例や、境港にて魚のアラや大型クラゲを収集・加工し飼料などへ製品化を行う錦海化成の事例発表が行われました。

本学と鳥取銀行の連携によるセミナーは今回が３回目であり、過去のセミナーでは共同研究案件に繋がるなど一定の成果も上がっていることから、引き続き産学金官による連携を強化していく予定です。

22. キチンナノファイバー研究会【 1 月 31 日（木）開催：広報センター】

今年で３回目となるキチンナノファイバー研究会（会長：工学研究科　斎本教授）が開催されました。当日は､「カニ殻由来の新繊維『キチンナノファイバー』その製造、改質、利用について」と題した工学研究科伊福准教授の報告など、構成員が日頃専門技術を駆使して行っているキチンナノファイバーの製造開発および利用開発の最新の成果 10 件について報告しました。

23. 平成２５年度鳥取大学振興協力会第１回役員会及び総会【 2 月 1 日（金）開催：白兎会館】

役員会では総会に提出する議案の審議を行いました。また、意見交換会では「今年９月に開催された鳥大生による企業訪問を今後も継続してもらいたい。そこに教員も参加していただきたい」といった意見が提案されました。

総会では役員改選外３議案が提案され、すべての議案が承認されました。副会長に気高電機（株）羽馬社長、西部地区の理事にサンイン技術コンサルタント（株）の大野木社長と（株）ケイズの後藤専務取締役が新たに選任されました。

総会後は記念講演として大学院工学研究科の簗瀬教授が「鳥取バイオマスエネルギーの創出に向けて」と題して講演を行い、参加者は熱心に聴講していました。

その後の交流会では、振興協力会の発展に尽力を頂いた能勢学長へ感謝状と記念品が贈呈されました。

24. 鳥取市と鳥取大学との意見交換会【2 月 6 日(水) 開催：鳥取市役所】

鳥取大学の地域貢献や産官学連携等について、鳥取市との一層の連携強化を図るため、意見交換会を開催いたしました。今年で６回目となる意見交換会には竹内市長、担当部課長、能勢学長、理事、副学長等２１名が出席しました。 主なテーマとして、市からは鳥取市若者会議や、海外学生交流事業等への学生の参加、大学生の住民票登録等、また、鳥大からは鳥大卒業生の市内定着、留学生支援対策、鳥取ものづくり道場の運営、新設の工学部附属２センターの活用等についてについて提案しました。

25. 平成２４年度第２回竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会役員会

【 2 月 7 日（木）開催：産学・地域連携推進機構】

竹に関する情報の提供やイベント開催など、鳥取県内の産学金官の各機関が連携して行う竹に関する連携協議会（略称）の平成２４年度第２回目となる役員会を開催しました。佐野会長外１０名が参加し、竹利用フェスティバルの開催及びニュースレターの発行について、並びに今後の活動方針等について協議しました。

26. 竹利用フェスティバル 2013【 3 月 16 日（土）開催：とりぎん文化会館】

一般市民に竹の利用や竹林整備について理解を深めてもらうため、産学金官が連携して行う「竹利用フェスティバル 2013」（主催：竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会）が開催されました。竹に関する講演会では、特別講演として、岡山県森林研究所の特別研究員である石井哲講師から「誰でもできる竹林整備―拡大防止と利用―」と題しお話を頂きました。また、竹利用事例講演として、創作工房中野竹藝・代表の中野泰助講師から「竹と日本人」について、鳥大大学院連合農学研究科の美藤友博講師から「“竹するめ”の機能性評価と新食品素材としての応用展開」と題しお話しを頂きました。フリースペースでは、竹製品の展示・即売会ならびに竹に関する研究パネル展示を行い、全体で約 260 名の方々が参加しました。

27. サポーターズ企業交流会【 2 月 13 日（水）開催：ホテルグランヴィア大阪】

鳥取県関西本部主催の平成２４年度「鳥取県サポーターズ企業交流会」が開催されました。この交流会は、本県への進出企業や本県ゆかりの経済人、本県行政関係者、産業支援機関等が出席し、例年開催されているものです。本学からは、林理事が出席し、関係者と意見交換を行いました。

28. 中海・宍道湖・大山圏域市長会シンポジウム【 2 月 15 日（金）開催： 】

中海・宍道湖・大山圏域市長会が主催するシンポジウムに林理事、栗政准教授、増田コーディネーターなどが出席しました。第 1 部の基調講演では、総務省地域力創造・緑の分権改革アドバイザー 椎川氏より「あるものを生かす『地域力』の創造《ひと・もの・絆》」と題して地域資源を生かした活性化の取り組み事例などについて講演がありました。第 2 部では圏域の首長がパネリストとして登壇し、圏域の将来像とその実現に向けて意見交換を行いました。今後、市長会と本学との連携強化が期待されます。

29. メタンハイドレート意見交換会【 2 月 16 日（土）開催：鳥取県立図書館】

次世代エネルギー源と言われている「メタンハイドレート」に関する講演会が明治大学特任教授の松本良 氏をお招きし開催されました。講演会に先立って、平井知事や本学塩崎准教授（工）、産学界の関係者が松本教授と意見交換を行いました。講演会で松本氏は、「資源化調査には時間がかかる。応援団を味方につけながら息長く進めていくことがポイント」と力説していました。

30. 鳥取大学天文ドーム一般公開【 2 月 16 日（土）開催：鳥取大学共通教育棟】

鳥取大学開放推進事業の支援を受けて鳥取大学天文観測室（天文ドーム）の一般公開を実施しました。当日は曇天で天体観測は行えませんでしたが、天文ドームの観測記録や宇宙開発研究会の展示などを行いました。また共催機関であるとっとりさじアストロパークの職員が当日の星の様子をコンピュータグラフィックで再現したほか､前日に地球に最接近した小惑星の撮影画像などを説明しました。約 80 名の参加者は展示物に熱心に見入っていました。

31. 大山・日野川・中海学協会幹事会【 2 月 22 日（金）開催：米子商工会議所】

今年度 2 回目の幹事会が役員と事務局の１７名が出席して開催されました。今回は、平成２４年度の事業報告の報告を事務局から行いました。続いて、平成２５年度の事業計画について事務局より説明がありました。事業計画では、近年受験者の減少が続いていた検定の廃止、新規事業として「出前講演会」を実施することなどの提案がありました。鳥取大学と共催のサイエンス・アカデミーin Yonago は継続して実施することを確認しました。　また、今回の幹事会には次期会長の豊島医学部長にもオブザーバーとして参加いただき、ご挨拶をいただきました。

32. 第３回西部総合事務所との意見交換会【 2 月 26 日（火）開催：ホテルハーベストイン米子】

鳥取大学と鳥取県西部総合事務所の幹部職員が一堂に会して、西部管内の活性化方策について意見・情報交換を行うとともに、今後の地域貢献分野における一層の連携強化を図ることを目的に毎年１回開催しています。今回で 3 回目の意見交換会であり、両機関から２２名が出席しました。　西部総合事務所からは下蚊屋ダムの濁水対策への協力や地域医療推進への協力等の提案がありました。また、本学からは産学金官連携事業等について一層の連携強化を図りたい等の提案を行い、熱のこもった意見交換会となりました。

33. 日野川の源流と流域を守る会総会・講演会【 2 月 27 日（水）開催：米子市文化ホール】

日野川に育まれた自然や文化を次世代へと受け継いでいくため平成１４年４月に設立された本会（会長：能勢学長）の総会および講演会が､鳥取県西部地域の住民を中心に約 80 名の参加者で開催されました。能勢学長から「この地域に暮らす一人ひとりが日野川を守り、楽しんでいくことを目指したい」とのあいさつのあと、新年度の活動計画などが協議されました｡講演会では医学部 祝部講師より「水と健康・環境」と題して、日南町を中心に実施された名水調査の様子や健康と水との関係について講演がなされました。また、新会長には、４月１日付けで本学学長に就任予定の豊島医学部長が選出されました。

34. 食品開発と健康に関する研究会【３月６日（水）開催：鳥取大学広報センター】

平成１７年９月に設立され、今回で１０回目となる研究会が開催されました。この研究会は、産業技術センター食品開発研究所、農林総合研究所、本学、食品関連企業等で構成されています。当日は、ゼンヤクノー森下社長、本学農学部南教授、食品開発研究所の松本特任研究員の事例報告に引き続いて、食品業界の状況や今後の研究会活動等について、積極的な意見交換が行われました。

35. 片山善博慶応大学教授による特別講演【３月 11 日（月）開催：農学部大講義室】

片山善博慶応大学教授（前鳥取県知事）の特別講演「知的立国と大学への期待」が農学部大講義室で開催され、能勢学長をはじめ役員・教職員など約 200 名が聴講しました。

片山教授は、今後日本がめざすべき国家像は、科学技術や文化芸術の振興により国を豊にする「知的立国」であり、そのために大学は新技術の開発や技術者養成、社会人の再教育などに積極的に取り組んで欲しいと語りました。

36. 第７回鳥取大学と鳥取県商工会連合会の連絡会【３月 12 日（火）開催：鳥取大学】

商工分野における一層の連携と理解を深めることを目的として、恒例となった連絡会を鳥取大学広報センターで開催し、約２０名が参加しました。鳥取大学と県商工会連合会の事例紹介の後、意見交換を行い、商工会連合会から「コーディネーターに気軽に相談できるようになった」、本学からは「両機関の人的ネットワークの一層の強化を図りたい」等の意見がありました。

37. 第４回とっとりグランマ倶楽部実行委員会【３月１日（金）開催：鳥取大学広報センター】

鳥取県、明治大学、本学の連携講座「とっとりグランマ倶楽部」の第４回実行委員会（会長：本学地域学部佐分利教授）を開催しました。来年度のとっとりグランマ倶楽部第６期のテーマは、「つながりの場づくり、活動の場づくり（仮）」とすることで、了承されました。今後は、具体的なカリキュラムの決定と講師選定を行い、６月２９日に開講式を行うこととされました。

38. 鳥取発！過疎地域の戦略セミナー【3 月 21 日（木）開催：明治大学リバティタワー】

鳥取大学では学部横断的な組織である「持続的過疎社会形成研究プロジェクト」として、地方や過疎地域自治体と密接な連携に基づいたフィールド実践研究を展開してきました。このプロジェクトの研究成果とともに、地域と大学の連携モデルについて紹介するセミナーを連携協定を締結している明治大学リバティタワーで開催しました。

セミナーでは、能勢学長の開催挨拶に引き続いて「高齢社会における生活支援と公共交通」について工学研究科谷本教授から、また、「森林価値の変遷と荒廃する森林のゆくえ」について、農学部片野助教から発表されました。後半は、「地域と大学との連携」について、増原日南町長から、「鳥取大学の地域連携モデル」について工学研究科細井教授から報告がありました。

セミナーには、首都圏を中心に全国の行政機関や関連民間企業の職員約 90 名の参加がありました。

39. 鳥取大学・明治大学連携事業　鳥取大学農学部生態工学研究室（日置佳之教授）・明治大学農学部応用植物生態学（倉本宣教授）研究室合同ゼミ

【 2 月 27 日（水）～28（木）開催：明治大学黒川農場】

春まだ浅い 2013 年 2 月 27-28 日､両大学間協定による交流事業として、鳥大農学部生態工学研究室の日置教授・学生 8 名が、明大農学部黒川農場を訪れ、倉本教授の研究室のメンバーと合同ゼミ等を行いました。同農場は多摩丘陵の一角に 2012 年 4 月に開設されたばかりの新しい農場で、総面積 12ha のうち半分強の 6.4ha は里山･雑木林が保全され、都市部では希少になった生きものの生息地となっています。27 日午前は倉本研究室のご案内で農場内外の自然を観察しました。午後は、明大の全学的環境ボランティア団体「こなら楽舎」及び自然保護市民団体の方々を交えて「都市近郊の里山と地方の里山の課題と未来」と題して合同ゼミを行い、自然環境保全に関するワークショップも行いました。また、翌 28 日は、多摩丘陵全般及び多摩川における自然の保護と再生について明大のご案内で見学しました。

40. 冬の手づくりまつり　【1 月 26 日(土) 開催：鳥取市こども科学館､2 月 9 日(土)：伯耆しあわせの郷､2 月 17 日(日)：米子市児童文化センター】

県内三つのものづくり道場では子どもたちを対象に「冬の手づくりまつり」を開催しました。３会場全体で、染めてランチョンマット、七宝焼きでスプーンの柄を飾ろう、牛乳パックでリリアン編みしちゃおう等合計３８ブースを出展し、約５５０名の子どもたちがものづくりを楽しみました。春・夏・秋にも開催しています。

41. とっとり産業フェスティバル 2013 実行委員会【3 月 15 日(金) 開催：鳥取大学】

とっとり産業フェスティバル２０１３の第１回実行委員会を開催しました。関係機関から１９名が参加し、来年度のェスティバルについて協議しました。来年度はこれまで以上に参加者を増やすため、商談会の開催や研究発表方法の工夫、実行委員会構成機関の役割分担の見直し等について検討しました。会期は９月６日・７日（金・土）の二日間、会場は鳥取県民体育館で開催することとしました。

42. 工学部学生が鹿野温泉で温度差発電システムの研究成果発表

【3 月 15 日(金) 開催：国民宿舎 山紫苑】

国民宿舎「山紫苑」前の足湯の照明灯を見学する参加者。左下は開発した発電・蓄電システム。

鳥取市鹿野町総合支所からの委託を受け､｢ものづくり実践プロジェクト」として工学部電子工学科の学生 3 名が半年間取り組んだ成果発表会が 3 月 15 日に、国民宿舎「山紫苑」で開催されました。ペルチェ素子の片面を温泉のお湯で温め、反対面を川の水で冷却し、温度差を利用して発電するもので、安定化回路、蓄電システムを備え、初期目標の 20W を達成しました。今後は、山紫苑前の足湯の夜間照明の電源として利用されます。この取組が鹿野温泉の観光振興の起爆剤の一つとなることも期待されます。

③知的財産管理運用に関する事業

1. 第９回中国地域産学官連携コンソーシアム外部評価委員会

【2 月 28 日(木)　開催：岡山大学】

第９回目中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）外部評価委員会が岡山大学で開催されました。本委員会では、さんさんコンソ事務局から平成 24 年度下期の活動報告と平成 25 年度以降の活動計画が報告されました。さんさんコンソの運営のための支援を行っていた文部科学省・イノベーションシステム整備事業（大学等産学官連携自立化促進プログラム）は本年度で終了しますが、引き続き、岡山大学と鳥取大学が継続して事務局を運営していくことや、来年度以降の活動について「産から学へ」の情報提供に重点を置く事などが説明されました。外部評価委員からは、活動が順調に進むための貴重な意見やアドバイスを多くいただきました。

2. 平成 24 年度下期中国地域産学官連携コンソーシアム連絡会議

【3 月 7 日(木)　開催：岡山大学】

中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）の平成 24 年度下期連絡会議が岡山大学において開催されました。この連絡会議は、半年に一回開催しているものであり、さんさんコンソの活動報告を行うと共に、今後の活動計画について承認を得るものです。今回、事務局以外に、さんさんコンソの正会員６校、特別会員７機関からの参加がありました。会議では、平成 24 年度下期の活動報告を行うと共に、平成 25 年度以降の活動の基本プランを事務局から説明しました。平成 25 年度以降の活動については、正会員および特別会員から様々な意見が出され、活発に討論されました。

3. 利益相反セミナー

【3 月 15 日(金)　開催：広報センター（中継：医学部旧保健学科棟)】

鳥取大学広報センターにおいて「産学官連携における利益相反の問題点とマネジメント方法を学ぶ」と題する利益相反セミナーが開催されました。講師である前知的財産管理運用部門長の佐々木茂雄客員教授(現、山梨大学客員教授)より、国立大学法人における利益相反規則や体制、利益相反マネジメントに対する日米の比較、過去の利益相反事件など利益相反に対する考え方やマネジメントの重要性について説明がありました。教職員を中心に３７名の参加者があり、本セミナーを通じて利益相反に関する興味や理解を深めるきっかけになったとの感想を頂きました。

行動憲章

私たちは、地域社会から期待される存在となります。
私たちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。
私たちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。
私たちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。
私たちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

発行日：平成 25 年 4 月 1 日＜第 32 号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp